

# 財政通信 No.2

平成17年7月

平成16年度の出納整理期間が終わり、17年度は早くも3カ月が経過しました。梅雨に入り、暑さが本格化する時期、職員のみなさん、うっとうしい天気にならず頑張って下さい。m(\_ \_)m

財政課では、出納閉鎖が地方財政状況調査(通称 決算統計)のスタートとなり、約1カ月にわたる繁忙期を終えたところです。日々、明らかになる龍ヶ崎市の決算状況に一喜一憂、各種指標の改善・悪化に毎日ドキドキ、あ～血压に悪いと思いつつ、「どうした、どうなった?」と部下に尋ね、「まだ出ません。集計中です(怒)」って言われてしまった財政課長です。

まもなく、今年度の財政運営を左右する前半の山、地方交付税の本算定です。この結果によっては、今年度の収支見込みの大幅修正が必要となります。財政課一同、気合いを入れ直しています。

では、ちょっとご無沙汰しました、「財政通信」です。今回は16年度決算の概要についてお知らせします。

## 平成16年度決算の概要

普通会計( )の歳入総額は223億7,969万円、歳出総額が217億3,006万円、差引6億4,963万円です。決算規模としては、対前年度比較で3億円程度の減となっています。

まず歳入ですが、市税が若干の持ち直しを見せました。前年度比較で3,735万円の増、久々の増収です(納税者の皆様ありがとうございます。収納にたずさわった皆さんご苦労様。でもピーク時より約7億円少ない(ToT))。しかし、しかしなんです、普通交付税とその代替財源である臨時財政対策債をあわせて、なんと5億8,500万円の減、税源移譲などを差し引いても4億2,535万円の減収です(これは痛い!三位一体って、なんか一位抜けていませんか?)。建設事業のための基金繰入以外に、地域振興基金を3億円繰入(預金の解約)でなんとか前年並みの実質収支を確保しましたけれど、これを毎年繰り返したら、何年も持ちません。自主財源の確保がより一層必要です。

一方、歳出ですが、財政健全化の取り組みの成果が現れて、事務的経費、維持管理費などは減少していますが、社会保障費である扶助費や特別会計繰出金がグッと伸びてきました。

あっと、決算額をそのまま羅列すると、金額が大きすぎてピンとこない人も多いと思いますので、一般家庭にたとえて見ましょう。

一般会計、介護サービス事業特会、障害者支援費事業特会を合算し、相互重複する繰出金・繰入金や、地方債の借換など実質的な収入・支出ではないものを控除したものを。

## 龍ヶ崎家の家計

龍ヶ崎家の16年度の収入は、お父さんの基本給(市税)が325万円、ボーナス(交付税)が107万円(年々減っている(´o`))、そのほかに両親から生活費として(国・県支出金)75万円、お母さんのパート収入(使用料・雑入など)が132万円でした。

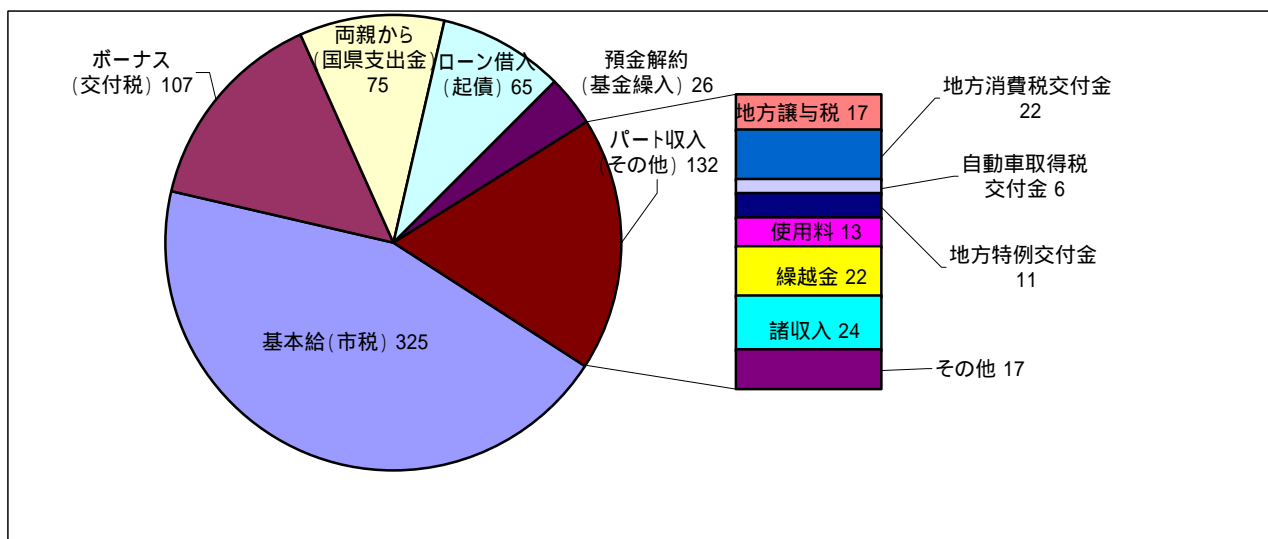
支出は、小学生と中学生の子供の教育費が、115万円、学習塾(小中学校費)も高いし、お姉ちゃんのピアノ(社会教育)やお兄ちゃんのサッカー(保健体育費)にもお金がかかります。弟の学童保育料、妹の保育料や、おじいちゃんの介護サービス利用料(介護特会繰出金)、医療保険の支払い(国保・老保特会繰出金)で165万円、ごみの処分(清掃費)や予防接種・健康診断(保健衛生費)で82万円、もう大変です。当然、家のローン(公債費)99万円も払わなければなりません。

お母さんは普段の生活費(総務費)を切りつめました。93万円が必要でした。さらに屋根の雨漏りを補修(土木費)したら87万円、このため、定期預金(基金)を26万円解約し、リフォームローン(起債)を65万円借りました。

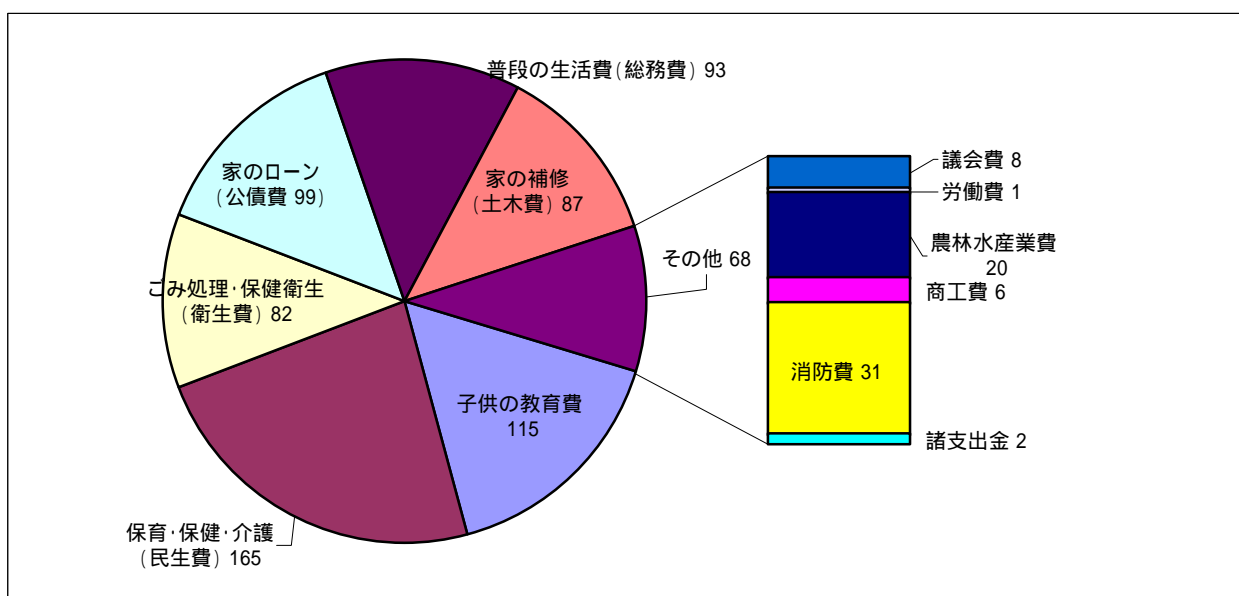
その結果、預金残高は191万円、ローン残高が1,000万円になりました。やりくり上手なお母さんもこの非常事態に、家族全員に節約を号令しました。(まずはお父さんのお小遣いだって)

### 龍ヶ崎家の家計

収入(総額730万円 単位:万円)

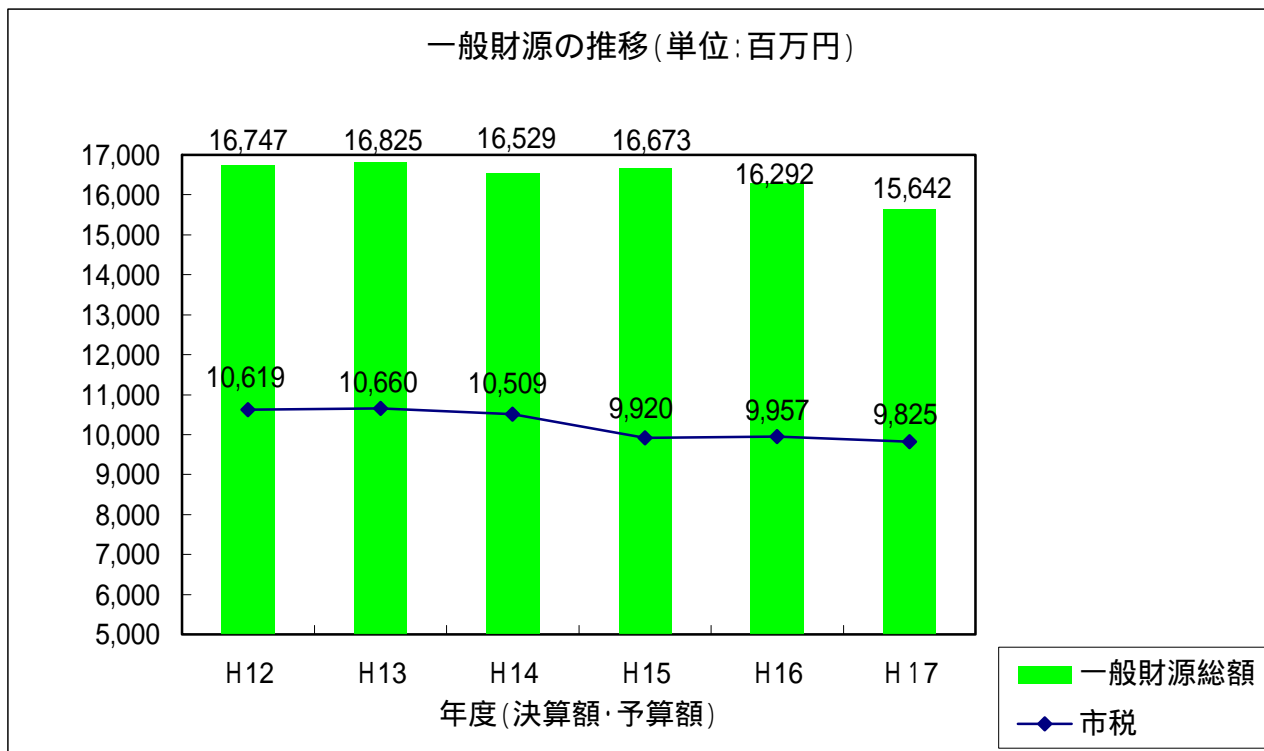


支出(総額709万円 単位:万円)



どうですか？少し現実的に考えられましたか？龍ヶ崎市に話を戻すと、平成16年度の経常収支比率は95%に達し、すなわち、市税(都市計画税を除く)や譲与税、普通交付税などの経常収入のうち95%が人件費、扶助費、公債費などに消え、新規事業や投資的経費に充てる経常一般財源は5%(約7億5,000万円、家計にたとえると24万円)しか残りません。特別会計への財政支援や建設事業、さらに一部事務組合の建設事業費負担などがあるので、都市計画税や特別交付税などの臨時一般財源を見込んでもしっかり余裕の無い状態が続きます。

この状況は、公債費償還等のピークが終わる平成23年度ぐらいまで続く見込みです。さらに、この間には平成19年度に予定される地方財政の抜本改革や、団塊の世代の退職などによる、退職手当負担金の激増など、大きな山が控えています。



## ～ ロード to 健全化 ～

よ～く考えて見よう、お金は使い道が大切

龍ヶ崎市の経常一般財源の大部分は市税です。納税の対価として行政サービスがあるわけです。(あるいは、市民の皆さんは税金で行政サービスを買っているという見方もできるかな?)したがって、市は魅力的なサービス(商品)を提供しなければなりません。

長年、人気のある定番もの、あるいはトレンドを素早く取り入れた流行もの、いろいろありますが、かつて人気があったサービスでも現在は利用者が少ない、あるいは、ほかに無いからしかたなく利用されているものありませんか？有り余る財源があれば八方美人的に「あれも、これも」とできるかもしれませんが、

限られたお金(予算)ですからより多くの市民に喜ばれ、あるいは納得されるサービスを提供しなければなりません。「あれか、これか」の選択と集中が大切です。

ということで節約や工夫にご褒美！・・・節約インセンティブ予算執行制度・・・

ちなみに、予算的なご褒美は、あくまで市民への還元であって、職員への還元ではありません。職員へのご褒美は「人的評価」です。念のため・・・

予算は担当から市長まで十分な時間をかけて要求・折衝・査定し、議会でも慎重に審議されたうえで決定されるものですから、それを消化すれば目的は達成されたという見方もあります。

しかし、予算は通常、前年度の10月頃に要求書作成が始まります。したがって、6カ月以上後の状況を想定しながら予算編成が行われるわけです。ということは、今日執行する予算は、前年度に考えられたプランに基づくものであって、ひょっとしたら今日のニーズにあっていないかもしれません。

また、執行上新たなアイデアを思いついたり(**アイデアはいつ生まれるかわかりません。特に実務を担う係員レベルの発想に期待しています。**)、さらには状況が変わって必要ないものが見つかるかもしれません。

そういった執行の段階での見直し、創意工夫や努力によってコストダウンや収入増を図り、財源を確保する。そして、部単位で節減・増収による財源を算定し、各部の自由裁量枠として配分し、各部は、その配分額で新規事業の展開や重点事業の上積みなどを行うことができます。

部単位の配分となりますので、部の裁量で、例えば財政課の歳出削減により、企画調整課の新規事業を展開する、税務課の歳入増分で収納課のシステムを強化するなどが可能となります。

詳細は、後日説明会を開催しますが、これまで以上に、担当部主導の予算編成が可能となります。積極的に活用してください。

これまで、慎重に時間をかけて決定された予算が「余る」という状況は、行政的には「要求・査定の不備」や「執行しなかった(仕事をしなかった)」というイメージがあり、評価を下げられたり、翌年度の予算削減に結びつくものと考えられてきました。

しかし、これからは、工夫や努力により「限度額(予算)の範囲内」で、「目的を達成した」というイメージに意識改革しなければなりません。

「使い切り予算」から「予算は限度額」へ、当然なことだけど再認識！

節約インセンティブ予算執行制度スタートです！！

現在、財政課では決算データをもとに、財政推計をローリングしています。(厳しい結果が予想されま  
す)次号では、今後の収支見通しをお知らせする予定です。

では、また次号で・・・(^o^)/~